

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																							
国際医療看護福祉大学校	平成13年12月11日	佐藤 本実	〒963-8811 福島県郡山市方八町2-4-19 (電話) 024-956-0160																							
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																							
学校法人新潟総合学院	平成7年3月24日	池田 祥護	〒951-8065 新潟県新潟市中央区東堀通一番町494番地3 (電話) 025-210-8565																							
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																						
医療	医療専門課程	言語聴覚士科	平成17年文部科学省告示第30号	-																						
学科の目的	医療・福祉・保健の領域で質の高い医療技術を提供できる言語聴覚士を育成するために、言語聴覚療法の専門知識、技術を体系的に学ぶ。さらに、人間性豊かな対人専門職としてコミュニケーション障害をもつ方々の心を理解する感受性や洞察力を磨き、臨床場面で起こる様々な問題に対応できる問題解決能力を育成する。																									
認定年月日	平成26年3月31日																									
修業年限	昼夜	講義	演習	実習	実験	実技																				
3年	3045時間	2355時間	210時間	480時間	0時間	0時間																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																					
120人	104人	0人	5人	14人	19人																					
学期制度	■前期:4月1日~9月30日 ■後期:10月1日~3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 定期考査と平素の学習状況を総合し、4段階評価とする。表示はA・B・C・Dとし、Dは不合格。																						
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:8月1日~8月31日 ■冬季:12月25日~1月7日 ■学年末:3月25日~4月7日		卒業・進級条件	卒業条件は、学則の全科目の単位を履修。 進級条件は、当該年度の全科目の単位を履修。																						
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任・スクールカウンセラーによる個別面談および学科長・担任による学生・保護者面談		課外活動	■課外活動の種類 特になし ■サークル活動: 無																						
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成28年度卒業生) 福島県立医科大学、寿泉堂総合病院、会津中央病院、竹田総合病院、総合北巻病院、初台リハビリテーション病院、かしま病院、塩原温泉病院 ■就職指導内容 マッチング、履歴書の添削、模擬面接による指導、卒業した未内定者への就職支援等 ■卒業業者数: 20人 ■就職希望者数: 14人 ■就職日数: 13人 ■就職率: 92.9% ■卒業者に占める就職者の割合: 65% ■その他 ・進学者数: 0人 ・就職活動中: 1人 ・国家試験再受験: 6人 (平成28年度卒業者に関する平成29年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業者に関する平成29年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>言語聴覚士国家試験</td> <td>②</td> <td>20人</td> <td>14人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①~③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	言語聴覚士国家試験	②	20人	14人												
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																							
言語聴覚士国家試験	②	20人	14人																							
中途退学の現状	■中途退学者 5名 ■中退率 5.2% 平成28年4月1日時点において、在学者96名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者91名(平成29年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 (例)学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等 進路変更、結婚(妊娠)等 ■中退防止・中退者支援のための取組 (例)カウンセリング・再入学・転科の実施等 学生との個別面談、保護者会、保護者面談、三者面談、スクールカウンセラーとの面談等																									
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: ○有・無 ※有の場合、制度内容を記入 「無利子奨学金制度」年額30万円を無利子で貸与し、卒業後の返済により、就学の便宜を図っている。 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象・非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																									
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: (有)無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																									
当該学科のホームページURL	URL: http://www.i-medical.jp/																									

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

言語聴覚士の育成において、言語聴覚士法を鑑みつつ、医療・福祉の現場が専門学校に望む教育内容を確認する。更に、地域医療に貢献できる言語聴覚士を育成するため、病院並びに施設側、学生側双方にとって望ましい教育内容を提供すべく、医療・福祉機関との連携を図りながら教育課程の改善を行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

委員会の目的として「教育課程編成の改善」を主とするため、本委員会を教務部の指導・助言機関として位置づけ、委員会での協議事項を学校管理者で検討するとともに、本校及びグループ校の意見等を取り入れながら教育課程へ反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成〇年〇月〇日現在

名前	所属	任期	種別
畔上 恭助	国際医療福祉大学保健医療学部 教授	平成29年4月1日～平成30年3月31日	②
阿久津 由紀子	福島県言語聴覚士協会 会長	平成29年4月1日～平成30年3月31日	①
志和 智美	あずま脳神経外科病院総合ケアセンター 副センター長	平成29年4月1日～平成30年3月31日	③
佐藤 本実	国際医療看護福祉大学校 学校長		
岡崎 史紹	国際医療看護福祉大学校 教務部長		
猪川 一裕	国際医療看護福祉大学校言語聴覚士科 学科長		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間開催数2回

第1回開催時期…7～8月, 第2回開催時期…1月～2月

(開催日時)

平成28年度 第1回 平成28年9月5日 15:00～16:00

平成28年度 第2回 平成29年2月13日 15:30～16:30

平成29年度 第1回 平成29年7月11日 15:00～16:00

平成29年度 第2回 平成30年2月13日 11:00～12:00 開催予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

本課程における課題は、国家試験における結果が低調な点である。本委員会にて様々な意見をいただきながら改善を進めている。直近の会議においては、臨床実習後に始まる本格的な国家試験対策の期間が短いことを受け、臨床実習時期の変更に関してアドバイスをいただいた。これまでほぼ全科目を修了させてから実習を開始していたが、吃音や嚙下など、実習後に行っても支障のない、むしろ実習後に実施した方が学習効果が期待できる数科目をピックアップして頂いた。アドバイスを受け、実習時期の変更について検討を続けている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実習を通して言語聴覚療法の専門的知識や技術のみならず、人間性豊かな専門職としてコミュニケーション障がいを持つ方々の心理的側面を理解するように努めることを目的とする。更に臨床場面で起こる様々な問題に柔軟に対処するための能力を育成する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

実習の目標や課題を明確にし、実習指導者は、到達度・評価を項目別に点数化する。評価表は文書にて作成し、各学生に返却。返却時に内容を伝達し、本人の改善点を明示して今後のスキルアップを図る。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
臨床実習Ⅰ	評価実習を行い、言語聴覚療法の専門的知識や技術を学ぶとともに、社会人としてスキルを養う。	三春町立三春病院、北福島医療センター、白河厚生総合病院、土屋病院、総合南東北病院、あさかホスピタル、宮古第一病院 等
臨床実習Ⅱ	訓練プログラムの作成、訓練の実施、訓練を再評価といった一連の総合実習を行う。	太田熱海病院、南東北春日リハビリテーション病院、かしま病院、竹田総合病院、寿泉堂総合病院、あずま脳神経外科病院 等

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

専門教育における教員には、授業を通して医療・福祉現場のたゆまぬ進歩の状況を学生に伝えられる知識と、学生の内面を理解した授業スキルの向上が求められる。そのため、就業規則第57条等による研修体制を充実させることで日々の研鑽を図る方針を推進している。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

- ・平成28年5月 市民公開講座(福島県言語聴覚士会主催)
- ・平成28年9月 認知症市民フォーラム(福島県言語聴覚士会主催)
- ・平成28年10月 日本聴覚医学会(日本聴覚医学会主催)
- ・平成28年10月 福島県失語症者の集い(失語症友の会、言語聴覚士会共催)
- ・平成29年2月 東北神経心理懇話会(東北大学高次脳機能障害科主催)

② 指導力の修得・向上のための研修等

- ・平成28年4月 新入職員研修(人材開発部主催)
- ・平成28年7月 新人教育フォローアップ研修(人材開発部主催)
- ・平成28年10月 全国リハビリテーション学校協会教員研修会(全国リハビリテーション学校協会主催)
- ・平成29年3月 実践行動学プログラム公認ファシリテーター養成講座(一般社団法人実践行動学研究所主催)

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

- ・平成29年5月 高次脳機能障害研修会(福島県言語聴覚士会主催)
- ・平成29年7月 言語発達研究と言語発達障害研究(竹田総合病院主催)
- ・平成29年9月 日本摂食嚥下リハビリテーション学会(JSDR主催)
- ・平成29年10月 スキルアップセミナー(福島県言語聴覚士会主催)
- ・平成29年10月 全国リハビリテーション学校協会東北ブロック研修(全国リハビリテーション学校協会主催)
- ・平成29年11月 失語症全国大会インいわて(日本失語症協議会主催)
- ・平成30年2月 日本嚥下医学会(日本嚥下医学会主催)

② 指導力の修得・向上のための研修等

- ・平成29年7月 実践行動学プログラム公認ファシリテーター養成講座(一般社団法人実践行動学研究所主催)
- ・平成29年8月 教員フォローアップ研修(全国専門学校教育研究会主催)
- ・平成29年8月 教員研究大会・教員研修会(全国リハビリテーション学校協会)
- ・平成29年10月 マネジメントとリーダーシップ研修(人材開発部主催)

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価については、文部科学省策定の「専修学校における学校評価ガイドライン」をベースに、任意団体である全国専門学校経営研究会(加盟校:26法人113校)により協議検討を重ねた「自己点検・評価基準」を主に、点検基準表を策定し、学校が委員会等の点検・評価を基に作成し、学校長が再点検の上、学校運営に反映させる方針とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念、教育目的、教育目標
(2)学校運営	教育の内容・管理運営・改革改善
(3)教育活動	教育の内容
(4)学修成果	教育目標の達成度と教育効果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育の実施体制
(7)学生の受入れ募集	学生支援
(8)財務	管理運営(法人)
(9)法令等の遵守	管理運営
(10)社会貢献・地域貢献	社会的活動
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校・評価委員会・本部による点検後の自己点検評価に基づき、不備な点の改善、方向性、及び次年度以降の解決・取組課題を具体化し、学校の質保証・向上に努めていく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
後藤 敦	学校法人新潟総合学院 国際メディカルテクノロジー専門学校 元校長	平成29年4月1日～平成30年3月31日	②
安田 公彦	校友会会長	平成29年4月1日～平成30年3月31日	③
寺島 長司	あづま脳神経外科病院 事務局長	平成29年4月1日～平成30年3月31日	③
窪 睦子	総合南東北病院 看護部長	平成29年4月1日～平成30年3月31日	③
永山 三郎	県立福島工業高校 元校長	平成29年4月1日～平成30年3月31日	②
佐藤 本実	学校法人新潟総合学院 国際医療看護福祉大学校 校長	平成29年4月1日～平成30年3月31日	
影山 かほる	学校法人新潟総合学院 国際医療看護福祉大学校 副校長	平成29年4月1日～平成30年3月31日	
岡崎 史紹	学校法人新潟総合学院 国際医療看護福祉大学校 教務部長	平成29年4月1日～平成30年3月31日	
佐藤 隆浩	学校法人新潟総合学院 国際医療看護福祉大学校 事務局長	平成29年4月1日～平成30年3月31日	
荒川 聖	学校法人新潟総合学院 国際医療看護福祉大学校 事務局長	平成29年4月1日～平成30年3月31日	

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

・自校の元校長、卒業生、病院事務長、実習先看護部長、高等学校元校長

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他() ()

URL: <http://www.i-medical.jp/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

当校の教育内容、内部活動、外部活動、資格・表彰、また学校経営に係る事項等の実績については、公益法人として、関連団体・関連業界・学生就職先のほか、広く万人に発信する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校概要・教育理念・教育目標
(2)各学科等の教育	学科別カリキュラム・特色・資格・就職実績
(3)教職員	専任教員・兼任教員紹介・数
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・就職指導
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事・対外活動・イベント・施設・設備
(6)学生の生活支援	各種奨学資金・学生寮・住居紹介
(7)学生納付金・修学支援	各種奨学資金・学費サポート・特待生制度
(8)学校の財務	収支決算書
(9)学校評価	自己点検評価結果
(10)国際連携の状況	留学生状況・国際提携校・国際交流活動
(11)その他	生涯学習・編入学等

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL: <http://www.i-medical.jp/>

授業科目等の概要

(医療専門課程言語聴覚士科) 平成29年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			心理学	心理学の基礎を学ぶ。	1年次前期	30	2	○			○			
○			芸術	音楽療法を通し感性を身に付ける。	1年次前期	30	2	○			○			
○			国語	言語学の基礎となる口語文法、及び文書作成、読解力の学習を通して基礎的な国語力を錬成する。	1年次前期	15	1	○			○			
○			教育学	学校・教育・指導などについて理解を深める。	1年次後期	30	2	○			○			
○			社会学	社会全体の構造や変動、個人の価値・志向性等を考える。	1年次後期	30	2	○			○			
○			職業倫理学	仕事・職業に関する考えからSTを目指す自分を振り返り、倫理的考えを体験する。	3年次前期	15	1	○			○			
○			生物学	人体の構造の基礎として、生物の正しい知識を習得する。	1年次前期	30	2	○			○			
○			統計学	基本事項の理解とデータの処理法を学ぶ。	1年次後期	30	2	○			○			
○			情報処理	Word・Excelを用いて文章や計算の処理能力を身につける。	1年次後期	60	2		○		○			
○			英語	高校基礎英語（文法・読解）を習得する。	1年次前期	30	2	○			○			
○			英会話	簡単な英語を使って日常会話を学ぶ。	1年次前期	30	2	○			○			
○			保健	健康的な生活習慣を培うための基礎について学習する。	1年次後期	15	1	○			○			
○			体育	安全に配慮し、協力して運動する態度を育成する。	1年次前期	30	1		○		○			

授業科目等の概要

(医療専門課程言語聴覚士科) 平成29年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			医学総論	日本の医療現場の現状を見極め、現代医療の本質を見極める。	1 年次前期	15	1	○			○	○		
○			解剖学	人体の構造を理解する。	1 年次前期	30	2	○			○		○	
○			生理学	人体の構造と臓器・組織の働きを理解する。	1 年次前期	30	2	○			○		○	
○			病理学	病気の原因と本質を理解する。	1 年次前期	30	2	○			○		○	
○			精神医学	精神医学の基本的な知識の習得。	2 年次前期	30	2	○			○		○	
○			小児科学	小児の疾患や発達を学ぶ。	2 年次通年	30	2	○			○		○	
○			内科学	代表的な疾患の原因と症状を理解する。	2 年次前期	30	2	○			○		○	
○			リハビリテーション医学	脳神経外科を理解しながら現場のリハビリテーションの実際を学ぶ。	2 年次後期	30	2	○			○		○	
○			耳鼻咽喉科学	耳鼻咽喉科学領域の基礎知識の理解を深める。	2 年次後期	30	2	○			○		○	
○			形成外科学	形成外科的基本事項を理解する。	2 年次後期	15	1	○			○		○	
○			臨床神経学	神経や筋肉の異常について学び、各神経疾患の病態の知識を得る。	2 年次後期	30	2	○			○		○	
○			臨床歯科医学・口腔外科学	顔面・口腔の解剖・生理・病態を学ぶ。	1 年次前期	30	2	○			○		○	
○			聴覚系の構造・機能・病態	聴覚器の構造・機能・病態を学ぶ。	1 年次前期	30	2	○			○		○	

授業科目等の概要

(医療専門課程言語聴覚士科) 平成29年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 時 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			呼吸・発声・発語系の構造・機能・病態	呼吸発声発語に関わる器官の構造・機能・病態を学ぶ。	1 年次 後期	30	2	○			○	○		
○			神経系の構造・機能・病態	中枢神経系・末梢神経系の構造と働きを学ぶ。	1 年次 後期	30	2	○			○	○		
○			臨床心理学	臨床心理学の理論について、歴史的な背景・各派の特徴を学ぶ。	2 年次 通年	60	4	○			○		○	
○			学習心理学	心理学の基礎を理解し、学習の仕組みを学ぶ。	1 年次 前期	30	2	○			○		○	
○			認知心理学	人間の感情・記憶・思考などについて実証的に総合的な理解を目標とする。	1 年次 後期	30	2	○			○			○
○			生涯発達心理学	研修方法と発達理論を学ぶ。	1 年次 通年	60	4	○			○			○
○			心理測定法	測定法の理論や具体的測定法について、代表する研究から実践的に学ぶ。	3 年次 後期	30	2	○			○			○
○			言語学	基礎的知識を学び、日本語はどのような言語なのか学ぶ。	1 年次 後期	30	2	○			○			○
○			音声学	単音レベルから音律レベルの音声学の知識・技能を身につける。	1 年次 通年	30	2	○			○			○
○			音響学	言語聴覚士として必要な音についての知識を習得する。	2 年次 後期	30	2	○			○			○
○			聴覚心理学	音の知覚現象、両耳聴、順応、カテゴリ知覚について学習する。	2 年次 前期	30	2	○			○			○
○			言語発達学	言語療法の基礎となることばの発達過程について理解する。	1 年次 通年	30	2	○			○			○
○			リハビリテーション概論	理学療法、作業療法における意味・意義を正しく理解する。	1 年次 前期	30	2	○			○			○

授業科目等の概要

(医療専門課程言語聴覚士科) 平成29年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			社会福祉・関係法規	社会福祉の制度やソーシャルワーク援助技術について学習する。	1 年次後期	30	2	○			○	○		
○			言語聴覚障害学総論	全体的に概説した内容を理解し、言語聴覚士の仕事について学ぶ。	1 年次前期	30	2	○			○	○		
○			言語聴覚障害診断学Ⅰ	種々の言語聴覚障害の評価・診断の方法の基礎を学ぶ。	2 年次通年	60	4	○			○	○		
○			言語聴覚障害診断学Ⅱ	種々の言語聴覚障害の評価・診断の方法の応用を学ぶ。	2 年次通年	60	4	○			○	○		
○			失語症Ⅰ	失語症の定義、病態、歴史を学び、タイプ分類や特色について理解する。	1 年次後期	30	2	○			○	○		
○			失語症Ⅱ	各種検査について学び、技術を習得する。また、訓練について考察する力をつける。	2 年次通年	60	4	○			○	○		
○			失語症Ⅲ	失語症に関する既習の内容を生かし、実技演習をを行う。	2 年次前期	30	2	○	△		○	○		
○			高次脳機能障害学Ⅰ	高次脳機能障害の各障害の基本概念・病巣責任・病状を理解する。	2 年次前期	30	2	○			○	○		
○			高次脳機能障害学Ⅱ	高次脳機能障害の評価・訓練を行えるようにする。	2 年次前期	30	2	○			○	○		
○			高次脳機能障害学Ⅲ	高次脳発達障害に関する既習の内容を生かし、実技演習をを行う。	2 年次後期	30	2	○	△		○		○	
○			言語発達障害総論Ⅰ	言語障害を引き起こす障害を理解する。	1 年次後期	30	2	○			○	○		
○			言語発達障害総論Ⅱ	小児の評価に必要な検査の実施方法、結果の解釈を学ぶ。	2 年次通年	60	2		○		○		○	
○			言語発達障害Ⅰ	検査結果のまとめ、評価の仕方、訓練プログラム立案を学ぶ。	2 年次前期	30	2	○			○		○	

授業科目等の概要

(医療専門課程言語聴覚士科) 平成29年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			言語発達障害Ⅱ	脳性麻痺の概要（基礎知識）、治療・療育について理解する。	2 年次後期	30 2	○			○			○	
○			言語発達障害Ⅲ	言語の各側面、各障害について知り、1人1人に合わせたプログラムの考え方を学ぶ。	2 年次後期	30 2	○			○			○	
○			音声障害	音声障害の評価・診断・治療の概要について学習する。	2 年次通年	30 2	○			○		○		
○			器質性構音障害	器質的な問題が原因で引き起こされる構音障害を理解する。	2 年次前期	30 2	○			○		○		
○			機能性構音障害	構音の障害の定義と概要を把握し、評価・治療の内容を理解する。	1 年次後期	30 2	○			○		○		
○			運動障害性構音障害Ⅰ	ディサースリアの概要・特徴を理解し、検査方法、検査の解釈、訓練プログラムの立案まで学習する。	2 年次後期	30 2	○			○			○	
○			運動障害性構音障害Ⅱ	運動障害性構音障害に関する既習の内容を生かし、実技演習を行う。	2 年次前期	30 2	○	△		○			○	
○			吃音	吃音の基礎知識・検査・訓練について学ぶ。	1 年次前期	30 2	○			○		○		
○			嚥下障害Ⅰ	定義・原因・筋と神経などを理解できる。嚥下病態について学習する。	1 年次後期	30 2	○			○		○		
○			嚥下障害Ⅱ	摂食・嚥下障害の実際の対応について学ぶ。アプローチ法・リスク管理含む。	2 年次後期	30 2	○			○			○	
○			嚥下障害Ⅲ	嚥下障害に関する既習の内容を生かし、実技演習を行う。	2 年次後期	30 2	○	△		○			○	
○			聴覚障害総論Ⅰ	聴覚障害の概要を捉える。	1 年次後期	30 2	○			○		○		
○			聴覚障害総論Ⅱ	聴覚機能検査の概要と実施方法を理解する。	2 年次前期	30 1		○		○		○		

授業科目等の概要

(医療専門課程言語聴覚士科) 平成29年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			聴覚障害Ⅰ	小児聴覚障害と言語発達および聴覚検査その他の検査を理解する。	2年次前期	30	2	○			○		○	
○			聴覚障害Ⅱ	成人聴覚障害の概要を学ぶ。	2年次前期	30	2	○			○		○	
○			聴覚障害Ⅲ	聴覚補償の考え方を理解し、補聴器の基礎から応用までを習得する。	2年次後期	30	2	○			○		○	
○			臨床実習Ⅰ	評価実習を行い、言語聴覚療法の専門的知識や技術を学ぶとともに、社会人としてスキルを養う。	3年次通年	160	4			○		○	○	○
○			臨床実習Ⅱ	訓練プログラムの作成、訓練の実施、訓練を再評価といった一連の総合実習を行う。	3年次通年	320	8			○		○	○	○
○			一般臨床医学	心肺蘇生・応急手当法の習得、看護行為に共通する援助技術の理解。	2年次前期	30	2	○			○		○	
○			手話	手話の基礎、簡単な日常会話を学ぶ。	1年次前期	30	1		○		○		○	
○			国家試験対策	国家試験合格を目標とし、国家試験出題範囲の学習に取り組む。	3年次後期	240	16	○			○		○	
○			臨床実習対策	臨床実習が円滑に行えるよう、知識・技術を身につける。	3年次前期	90	6	○			○		○	
合計						74科目		3045単位時間(176単位)						

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件…全科目の単位を履修すること	1学年の学期区分	2期
履修方法…①3分の2以上の出席率 ②定期試験等の結果がC評定以上	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。